

# 北海道札幌市北区篠路町上篠路方言の副助詞

道場 優

## I. はじめに

(1) 調査対象地：札幌市は、北海道の中央部を流れる石狩川の河口近くの左岸に位置し、現在人口175万人、北海道の道庁所在地である。

北区は、札幌市9区の一つで、石狩川を隔てて北は当別町、石狩市と隣接している。人口は約25万人、札幌市の北部に位置する。

篠路町上篠路地区は、人口は2,306人（平成9年現在）。札幌で一番早く開拓が始まった旧篠路村の内にあり、昔から「丘珠黄」で有名な玉葱生産が主の農業地帯である。まだ農業に従事する人もいるが、最近宅地化が大いに進み、現在、大団地の建設が進行中で、都市化が激しい地域である。

(2) 調査年月日： 1998年1月8日 午後1時30分～午後2時30分

(3) 話者： 宮本清美氏 大正11年9月25日生（77歳）

(4) 調査者・調査場所： 道場 優、話者自宅

(5) 調査方法： 統一調査票による質問調査

(6) その他：①発話はカタカナで表記する。ガ行鼻音はガ°・ギ°などで示す。②アクセントは棒引きで表わす。③話者の説明は（ ）内に、調査者の注記は< >内に記す。④文例は○印で示す。

## II. 調査結果

(1) 添加・例示・提題などをあらわもの

### A. 添加 《さえ・も》

1. 雨だけでなく風さえ吹いてきた。 ○アメダケデナク カゼサエ フイテ キタ。

2. 今年は豊作で、米ばかりか麦もよくとれた。 ○コトシワ ホーサクデ コメバカリデナク ムギモ トレタ。

### B. 予想外の事実 《さえ・だけ》

3. 小学生でさえ簡単にワープロを使っている。 ①ショークグセーデサエ カンタンニ ワープロ ツカッテル。／②ショークグセーデモ カンタンニ ワープロ ツカッテマスネー。（多く使う）

4. （宝くじが）当たると思っていなかっただけに嬉しい。 ○タカラクジガ° アタルト オモッテナカッタダケニ ウレシー。

### C. 条件 《さえ》

5. 暇さえあれば釣りに行っている。 ○ヒマサエ アレバ ツリニ イッテルネー。

D. 例示 《でも・ほど・まで・など・やら・なり・なんて》

6. まあお茶でも飲んでください。 ○マ<sup>ー</sup> オチャデモ<sup>ー</sup> アンデツテクダサイ。
7. みやげにはこのまんじゅうなどどうかな。 ○ミヤゲ<sup>ニ</sup>ワ コノマンジュ<sup>ー</sup>ナンカ イ<sup>ー</sup>デショ<sup>ー</sup>ネ<sup>ー</sup>。
8. 思わず跳び上がるほど嬉しかった。 ○オモワズ<sup>ト</sup> ビアガル<sup>ホド</sup> ウレシカッタ<sup>ワ</sup>。
9. まさかあなたにまで話が行くとは思わなかった。 ○マサカ<sup>ア</sup>ナタニマデ<sup>ハ</sup>ナシ<sup>イ</sup>クト オモワナカッタ<sup>ワ</sup>。
10. なぐるやら蹴るやらの乱暴をはたらいだ。 ○ナグルヤラ<sup>ケ</sup>ルヤラノ ランボ<sup>ー</sup>オ<sup>ハ</sup>タライタ。
11. 私になり相談してくれれば良かったのに。 ○ワタシニ<sup>デ</sup>モ ソーダンシテ<sup>グ</sup>レバヨカッタ<sup>ネ</sup>。
12. 野菜なんていくらでもできる。 ○ヤサイナンテ<sup>イ</sup>クラデモ<sup>デ</sup>キル。

一対の語の例示 《だって》

13. しょうゆだってみそだって作っていたんだ。 ○ムカシワ<sup>ショ</sup>ーユダッテ<sup>ミ</sup>ソダッテ<sup>ツ</sup>クッテイマシタ<sup>ネ</sup>。

扱一 《なり》

14. 私なり弟なりがお手伝いに行きます。 ○ワタシ<sup>デ</sup>モ オト<sup>ト</sup>デモ<sup>オ</sup>テツガイニ<sup>イ</sup>キマス。

例外でない 《とて》

15. 村長とて、そうするより仕方なかったんだらう。 ○ソ<sup>ン</sup>チョ<sup>ー</sup>ダッテ<sup>ソ</sup>ースルヨ<sup>リ</sup>シカタ<sup>ナ</sup>カッタ<sup>ン</sup>デショ<sup>ー</sup>ネ<sup>ー</sup>。

列举 《も》

16. 春らしくなって、梅も桜も一度に咲いた。 ○ハル<sup>ラ</sup>シクナッテ<sup>ウ</sup>メモ<sup>サ</sup>クラモ<sup>イ</sup>チ<sup>下</sup>ニ<sup>サイ</sup>テ<sup>ハ</sup>ルラシ<sup>ー</sup>ネ<sup>ー</sup>。

同類の暗示 《も》

17. テレビもそろそろ買い替えよう。 ○テレ<sup>ビ</sup>モ ソロソ<sup>ロ</sup>アタラシ<sup>ー</sup>ノ<sup>ホ</sup>シ<sup>ー</sup>ネ<sup>ー</sup>。

やわらげ 《でも》

18. まあお茶でも飲んでください。 ○オチャ<sup>デ</sup>モ<sup>ア</sup>カッテクダ<sup>サ</sup>ーイ。

E. 包括 《など》

19. 盆には子や孫などが帰ってくる。 ①オ<sup>ボ</sup>ンニ<sup>ワ</sup> コ<sup>ヤ</sup> マ<sup>ゴ</sup>カ<sup>ク</sup>ル<sup>ノ</sup>ガ<sup>タ</sup>ノシ<sup>ミ</sup>デス<sup>ネ</sup>。 / ②オ<sup>ボ</sup>ンニ<sup>ワ</sup> コ<sup>ヤ</sup> マ<sup>ゴ</sup>ナ<sup>ド</sup>ガ<sup>ア</sup>ソ<sup>ビ</sup>ニ<sup>ク</sup>ル<sup>ノ</sup>ガ<sup>タ</sup>ノシ<sup>ミ</sup>デス。

F. 提題 《だって》

20. ゲートボールだってできるよ。 ○ゲート<sup>バー</sup>ボール<sup>ダッテ</sup> デ<sup>キ</sup>ル<sup>ヨー</sup>。

話題にあげる 《って》

21. 何だい、いいことって。 ○ナーニ <sup>イー</sup>コト<sup>ッテ</sup>。

極端なものの提示 《でも・くらい・すら・も》

22. そんなこと子供にでもできるよ。 ○ソ<sup>ン</sup>ナ<sup>コト</sup> コドモ<sup>デ</sup>モ デ<sup>キ</sup>ル<sup>ン</sup>デ<sup>ナー</sup>イ。

23. 食べることくらいは何とかしたい。 ①タ<sup>ベル</sup>コト<sup>ダ</sup>ケ<sup>ワ</sup> ナ<sup>ント</sup>カ シ<sup>マ</sup>ス。  
/②タ<sup>ベル</sup>コト<sup>グ</sup>ライ ナ<sup>ント</sup>カ シ<sup>タイ</sup>ネ<sup>ー</sup>。

24. 名前すらろくに覚えていない。 ①ナ<sup>マ</sup>エ<sup>ス</sup>ラ ロ<sup>ク</sup>ニ オ<sup>ボ</sup>エ<sup>テ</sup>ナイ<sup>ワ</sup>ネ<sup>ー</sup>。  
/②ナ<sup>マ</sup>エ<sup>サ</sup>エ。(多く使う)

25. 弁当代に千円もかかった。 ①ベ<sup>ント</sup>ー<sup>ダイ</sup> セ<sup>ン</sup>エ<sup>ン</sup> カ<sup>カ</sup>ツ<sup>タ</sup>。/②ベ<sup>ント</sup>ー<sup>ダイ</sup>ニ セ<sup>ン</sup>エ<sup>ン</sup>モ カ<sup>カ</sup>ツ<sup>タ</sup>。

軽いものをあげる 《さえ》

26. これさえあればもう大丈夫だ。 ○コ<sup>レ</sup>サ<sup>エ</sup> ア<sup>レ</sup>バ モ<sup>ー</sup> ダイ<sup>ジ</sup>ョ<sup>ー</sup>ブ<sup>ダ</sup>ー。

(2) 分量・程度・基準などをあらわもの

G. 分量・程度 《ほど・くらい・ばかり》

27. 旅行で三日ほど家をあげた。 ○リ<sup>ョ</sup> コ<sup>ー</sup>デ ミ<sup>ッ</sup>カ<sup>ホ</sup>ド イ<sup>エ</sup>オ ア<sup>ケ</sup>タ。

28. 茶碗に半分くらいください。 ○チャ<sup>ワン</sup>ニ ハ<sup>ン</sup>ブ<sup>ン</sup>グ<sup>ライ</sup>デ イ<sup>ー</sup>デ<sup>ス</sup>ネ<sup>ー</sup>。

29. 子供にでもわかるくらいのやさしい本だ。 ○コ<sup>ド</sup>モ<sup>ニ</sup>デ<sup>モ</sup> ワ<sup>カ</sup>ル<sup>ク</sup>ライ ヤ<sup>サ</sup>シ<sup>ー</sup> ホ<sup>ン</sup>デ<sup>ス</sup>ネ<sup>ー</sup>。

30. 一週間ばかり留守にするので頼むよ。 ○イ<sup>ッ</sup>シュー<sup>カン</sup>ホ<sup>ド</sup> ル<sup>ス</sup>ニ<sup>ス</sup>ル<sup>ノ</sup>デ ヨ<sup>ロ</sup>シ<sup>ク</sup>ネ<sup>ー</sup>。

H. 基準 《ほど》

31. 今年の寒さは去年ほどではない。 ○コ<sup>ト</sup>シ<sup>ノ</sup> サ<sup>ム</sup>サ<sup>ワ</sup> キ<sup>ョ</sup>ネ<sup>ン</sup>ホ<sup>ド</sup>デ<sup>ワ</sup> ナ<sup>イ</sup>デ<sup>ス</sup>ネ<sup>ー</sup>。

I. 理由 《ばかり》

32. ちょっと油断したばかりにとんでもないことになった。 ○チ<sup>ョ</sup>ット ユ<sup>ダ</sup>ン<sup>シ</sup> タ<sup>バ</sup>カ<sup>リ</sup>ニ エ<sup>ラ</sup>イ<sup>コト</sup>ニ ナ<sup>ッ</sup>チャ<sup>ツ</sup>ター。

J. 「それにふさわしく」 《だけ》

33. 苦勞しただけあって人間ができています。 ○ク<sup>ロ</sup>ー<sup>シ</sup>タ<sup>ダ</sup>ケ<sup>ア</sup>ッ<sup>テ</sup> ニ<sup>ン</sup>ゲ<sup>ン</sup>ラ シ<sup>ク</sup>ナ<sup>ツ</sup>タ。

形式名詞的用法 《なんか》

34. 毎日孫の守りやなんかで忙しい。 ①マイ<sup>ニ</sup>チ マ<sup>ゴ</sup>ノ モ<sup>リ</sup>デ イ<sup>ソ</sup>ガ<sup>シ</sup>ー<sup>ネ</sup>。  
→ /②マイ<sup>ニ</sup>チ マ<sup>ゴ</sup>ノ モ<sup>リ</sup>ヤ<sup>ナ</sup>ン<sup>カ</sup>デ イ<sup>ソ</sup>ガ<sup>シ</sup>ー。

「それこそ」 《こそ》

35. それこそバケツをひっくりかえしたような雨だ。 ○ソレ<sup>コ</sup>ソ バケツ<sup>オ</sup> ヒック  
リ<sup>カ</sup>エシタ<sup>ヨ</sup>ーナ オーアメダ<sup>ワ</sup>ネー。

「～ばかりか」 《ばかり》

36. 父ばかりか母もスポーツ好きだ。 ○チチ<sup>バ</sup>カリ<sup>カ</sup> ハハ<sup>モ</sup> スポーツ<sup>ガ</sup> ダイ  
スキ<sup>ネ</sup>ー。

K. 今にも行なわれる 《ばかり》

37. もう食べるばかりにしてある。 ①イツ<sup>デ</sup>モ ショクジ<sup>デ</sup>キル<sup>ヨ</sup>ーニ シテアル  
カラ<sup>ネ</sup>ー。 / ②<sup>モ</sup>ー タベル<sup>バ</sup>カリ<sup>ニ</sup> シテアルカラ<sup>ネ</sup>ー。

動作の完了直後 《ばかり》

38. 今、仕事から帰ったばかりだ。 ○シゴト<sup>カ</sup>ラ カエッタ<sup>バ</sup>カリ。

基準 《まで》

39. 駅までもうちょっとだ。 ○エキ<sup>マ</sup>デ <sup>モ</sup>ー スコシ<sup>デ</sup>ス<sup>ネ</sup>ー。

L. 等量の反復 《ずつ》

40. 一人ずつ呼んで話をした。 ○ヒト<sup>リ</sup>ズツ ヨンデ ハナ<sup>シ</sup>オ シマシタ。

M. 等量の分配 《ずつ》

41. 一人に二個ずつみかんをやる。 ○ヒト<sup>リ</sup>ニ ニコ<sup>ズ</sup>ツ ミ<sup>カ</sup>ン<sup>オ</sup> アケ<sup>ル</sup>。

(3) 限定・限界などをあらわもの

N. 限定 《しか・だけ・ばかり・きり》

42. 酒はたまにしか飲まない。 ○サケ<sup>ワ</sup> タマニ<sup>シ</sup>カ ノミ<sup>マ</sup>セン<sup>ネ</sup>ー。  
43. 今朝は寝坊をしてパンだけ食べて来た。 ○ケ<sup>サ</sup>ワ <sup>ネ</sup>ポーシテ <sup>パ</sup>ンダケ <sup>タ</sup>  
ベテ キマシタ。  
44. そんなに勉強ばかりしていると体に毒だよ。 ○ソ<sup>ン</sup>ナニ ベンキョー<sup>バ</sup>カリシ  
テイルト カラダニ ドク<sup>ダ</sup>ネー。  
45. うちの田が残っているきりで、よそは全部終わった。 ○ウチ<sup>ノ</sup>タガ<sup>ノ</sup>コッテ  
ルダケデ ミンナ<sup>オ</sup>ワリ<sup>マ</sup>シタ<sup>ネ</sup>ー。

O. 強調 《しか・こそ》

46. もうこれだけしかないよ。 ○<sup>モ</sup>ー コレ<sup>ダ</sup>ケシカ ナイ<sup>ネ</sup>ー。  
47. 今年こそいい年にしたい。 ○コト<sup>シ</sup>コソ イート<sup>シ</sup>ニ シ<sup>タ</sup>イデス<sup>ネ</sup>ー。

P. 限界 《だけ・まで》

48. これだけ言っても分からないのか! ○コレ<sup>ダ</sup>ケ イッ<sup>テ</sup>モ ワカラ<sup>ナイ</sup>ノー。  
49. 2千円くらいまでなら何とかなる。 ○<sup>マ</sup>ー ニセン<sup>エン</sup>グライ<sup>ナ</sup>ラ <sup>ド</sup>ーニカ  
ナリ<sup>マ</sup>ス<sup>ネ</sup>。

(4) 陳述的なもの

Q. 「～ば～だけ」 《だけ》

50. 肥料をやればやるだけよく育つ。 ○ヒリョーワ ヤレバ ヤルダケ ソダチマ  
スネー。

「假定形・ば・こそ」 《こそ》

51. 心配すればこそ言うんだ。 ○シンバイスルカラ ユッテルンデスヨー。

「こそ・假定形」 《こそ》

52. 彼は文句こそ言え、人の言うことなど聞かない。 ○カレワ モンクゴソ ユー  
ケド ヒトノ ユーコト アンマリ キカナイネー。

53. 「～でこそあれ《コサレなども》」という言い方はありますか。 ○ない

「未然形・ば・こそ」 《こそ》

54. 押しでも引いても動かばこそ。 ○オシテモ ヒーテモ ダメダネー。

「～こそ。」 《こそ》

55. 失礼なことを言わないでこそ。 ○シツレーナコト イワナイデー。

「～こそ～が」 《こそ》

56. 今でこそ家から出ないが、昔はよく出歩いていた。 ○イマデコソ アンマリ  
デナイケド ムカシャー ヨク デマシタネー。

「～ば～ほど」 《ほど》

57. 働けば働くほどもうかる。 ○ハタラケバ ハタラクホド モーカルワネー。

R. 打ち消しとの呼応 《まで》

58. 村長に聞くまでもないことだ。 ○ソンチョーサンニ キクマデモナイネー。

否定との呼応（それさえもない） 《も》

59. 朝から忙しくて昼飯も食えない。 ○アサカラ イソガシクテ チューショクモ  
タベレナイネー。

否定的取り上げ 《など》

60. こんなものなどいくらでもあるよ。 ○コンナモノナラ イクラデモ アルモネー。

全面否定 《だって》

61. 誰だってそんなことを言われたら怒るよ。 ○ダレダッテ ソンナコト イワレ  
タラ オコルヨネー。

S. 次の動作が不可能 《きり》

62. 10年前に故郷を離れたきり、一度も帰っていない。 ○ジューネンマエニ コ  
キョーオ ハナレタキリ イチドモ カエッテナイネー。

(4) モダリティ 一的なもの

T. 不確かな気持ち 《やら・か》

63. いつのまにやら眠ってしまった。 ○イツノマニカ ネムッテシマッタ。

64. 何のことが分からない。 ○ナンノコトカ ワカラナイ。

推定 《か》

65. 後で遊びに行くかもしれない。 ①アトデ アソビニ イクカシレナイネー。 /  
②アトデ アソビニ イクカモシレナイネー。

どちらか分からない 《やら》

66. 来るのやら来ないのやらよく分からない。 ○クルカ コナイカ ヨク ワカラ  
ナイ。

はっきり言わない 《やら》

67. どこやらへ引っ越したそうだと。 ①ドコカエ ヒッコシタヨードケドー。 / ②ド  
コカエ ヒッコシタヨードスネー。

U. 非難 《たら・てば》

68. お父さんたら今日も遅いのね。 ○オトーサンタラ キョーモ オソイノネー。

69. お父さんてば、子供のようなことを言って。 ○オトーサンタラ コドモミタイ  
ナコト イッテ。

(5) その他の表現

V. 累加1 《さえも・すらも》

70. お礼の言葉さえもない。 ①オレーノ コトバモ ナイネー。 / ②オレーノ コ  
トバサエ ナイネー。

71. 本人すらも気づかなかった。 ○ホンニンスラモ キズカナカッタ。

W. 累加2 《までも》

72. 貯金までもしていたのか。 ○チョキンマデモ シテタノネー。

73. 口に出すまでもない。 ○クチニ ダスマデモ ナイネー。

74. 謝らないまでも、連絡くらいはしてほしい。 ○アヤマラナイマデモ レンラク  
グライ クダサイ。

X. 累加3 《ばかりか》

75. 反対ばかりか、邪魔さえする。 ○ハントイバカリカ ジャママデ シナイデ。

Y. 累加4 《までもが》

76. 他人だけでなく、親までもが私の悪口を言う。 ○タニンバカリデナク オヤマ  
デガ ワタシノ ワルクチオ ユー。

### Ⅲ. 総括(まとめ)

- (1) 当地の方言固有の副助詞はあまり存在せず、ほとんどの場合、基本的には共通語に準ずる副助詞があてられる。
- (2) 一部、共通語と異なる点は次の通りである。
1. D-7 [例示] の《など》は、「ナンカ」を使う。
  2. D-11 [例示]・D-14 [択一] の《なり》は、「デモ」を使う。これらは同じ用法からの使用と思われる。  
D-15 [例外でない] の《とて》には、「ダッテ」を使う。
  3. F-23 [極端なものの提示] 《くらい》には、「ダケ」も使う。これは [限定] の意味を持つ「ダケ」を代用させていると思われる。他の用法を持つ《くらい》は、「クライ」、「グライ」で表現する。  
F-25 [極端なものの提示] の《も》は、「モ」を省略することもある。
  4. G-30 [分量・程度] の《ばかり》は、「ホド」を使う。  
K-37・K-38 [今にも行なわれる] の《ばかり》は、「バッカリ」を使う。
  5. J-34 [形式名詞的用法] の《なんか》は、「ナンカ」の他に、「ナンカ」を省略し、格助詞の「デ」で表現することもある。
  6. N-45 [限定] の《きり》は、同じ用法を持つ「ダケ」を使う。
  7. P-49 [限界] の《まで》は、「マデ」を省略することもある。
  8. Q-51 [仮定形・ば・こそ] の《こそ》は、「コソ」を省略し、「～カラ～」と表現する。  
Q-53 [～でこそあれ] という言い方はない。  
Q-55 [～こそ。] の《こそ》は、「コソ」を省略して表現する。
  9. R-60 [否定的取り上げ] の《など》は、「ナラ」を使う。これは断定の助動詞「なり」から変化した助詞で、並列の意味も含むと考えられる。
  10. T-63 [不確かな気持ち] の《やら》は、一般的には「カ」を使う。これは同じ用法からの使用である。
  11. U-69 [非難] の《てば》には、一般的には「タラ」を使う。
  12. V-70 [累加] の《さえも》は、「モ」を省略し、「サエ」を使う。また、「サエ」を省略し、「モ」のみを使う時もある。これは [強調] の意味を表わす点が共通なので、使用されていると思われる。
  13. V-76 [累加] の《までもが》は、「モ」を省略した「マデカ<sup>o</sup>」を使う。

(どうじょう まさる 札幌大谷高等学校)